

この文書でいう「製品」とは、本機またはその付属品を指しています。

警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
「使用上の注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、ACアダプターのコードに傷みがないか、コンセントとACアダプターのプラグの間にはこりがたまっていないか、ACアダプターのプラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、本機やACアダプターなどが破損しているに気づいたら、すぐにソニーの相談窓口またはお買い上げ店に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

- ① 本機のACアダプターをコンセントから抜く。
- ② 本機とパソコンをUSBケーブル(別売)で接続している場合はUSBケーブルを抜き、パソコンの電源を切る。
- ③ ソニーの相談窓口またはお買い上げ店に相談する。

ACアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いて下さい。

警告表示の意味
本書および製品には、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

警告
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

注意
この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を示す記号



警告 **危険**
下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けがの原因**となります。

湿気やほこり、油煙、湯気が多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない
上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となります。特に風呂場などは絶対に使用しないでください。

本機を開けたり、分解や改造をしない
火災や感電、けがの原因となることがあります。
→ 内部の点検や修理は、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にご依頼ください。

内部に水や異物を入れない
本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやロケットを置かない
火災や感電の危険をさけるために、本機やACアダプターを水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機やACアダプターの上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。
本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。
→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、本機とパソコンをUSBケーブル(別売)で接続している場合はUSBケーブルを抜き、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にご相談ください。

雷が鳴りしたら、本体、ACアダプターや電源プラグに触れない
感電の原因となります。

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する
本機やACアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切ただけでは、完全に電源から切り離せません。

ACアダプターのコードを傷つけない
ACアダプターのコードを傷つくと、火災や感電の原因となります。
• 設置時、本機と壁や棚との間にはさみ込みたりしない。
• ACアダプターのコードを加工したり、傷つたりしない。
• 重いものをせたり、引っ張ったりしない。
• 熱器具に近づけない。加熱しない。
• 移動させるときは、ACアダプターを抜く。
• ACアダプターを抜くときは、必ずACアダプターの筐体を持って抜く。
→ 万一、ACアダプターのコードが傷んだら、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店に交換をご依頼ください。

本機を日本国外で使わない
交流100 Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

注意
下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり**周辺の家財に損害**を与えたりすることがあります。

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または本機やACアダプターを箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

幼児の手が届かない場所に置く
ダストカバーと本体の隙間や、ダストカバーを外して使用しているときに、ヒンジ部などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

ぬれた手でACアダプターや電源プラグにさわらない
感電の原因となることがあります。

音量で長時間つづけて聞かない
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
→ 呼びかけられたら気がつくくらい音量で聞くことをおすすめします。

安定した場所に置く
ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、本機が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

コード類は正しく配置する
ACアダプターのコードや接続ケーブルは足に引っかけると本機の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

移動させるとき、長時間使わないときは、ACアダプターを抜く
長期間使用しないときは安全のためACアダプターをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない
清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火化、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない
電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない
電波の影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

持ち運ぶ際は本体の下を持つ
本体の下をしっかり持つてってください。誤った方法で運搬すると、本機が落下し、けがや故障の原因となることがあります。

内部の点検や修理は、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にご依頼ください。

内部に水や異物を入れない
本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやロケットを置かない
火災や感電の危険をさけるために、本機やACアダプターを水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機やACアダプターの上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。
本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。
→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、本機とパソコンをUSBケーブル(別売)で接続している場合はUSBケーブルを抜き、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にご相談ください。

無線の周波数について
本製品が使用している周波数は、他の無線機器でも使用していることがあります。
他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

2.4 GHz機器使用上の注意事項
本製品の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。
1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止した上、下記連絡先へご連絡頂き、混信回避のための処置等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
3. その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店までお問い合わせください。

この無線製品は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS方式を採用し、干渉距離は10 mです。

ステレオレコードプレーヤーについて
機殻板は本機の底面に貼ってあります。

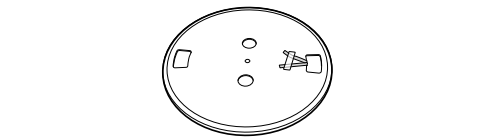
ACアダプターについて
ACアダプターの機種名とシリアルナンバーは、ACアダプターの底面に表示してあります。

ソフトウェアバージョンの確認方法
パソコン上で本機のファームウェアのバージョンを確認することができます。ソフトウェアの更新がある場合に提供される更新用ソフトウェアをソニーサポートホームページでダウンロードして、ファームウェアを更新します。

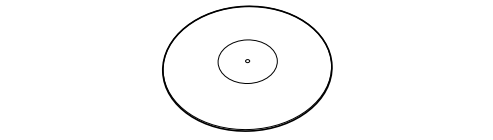
使ってみよう

同梱品を確認める

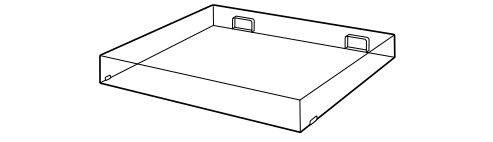
- ステレオレコードプレーヤー(1)
- ターンテーブル(ドライブベルト付き) (1)



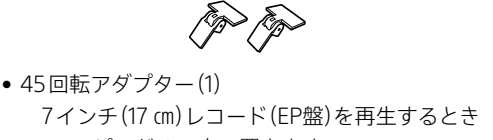
- ターンテーブル用マット(1)



- ダストカバー(1)



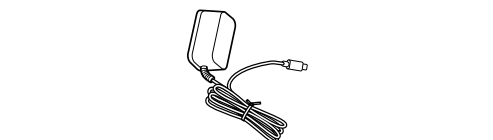
- ダストカバー用ヒンジ(2)



- 45回転アダプター(1)

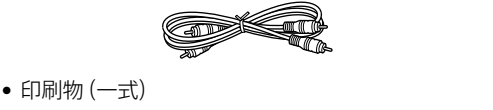
7インチ(17 cm)レコード(EP盤)を再生するとき、スピンドルの上に置きます。

- ACアダプター(1)



- 音声ケーブル(1)

PS-LX5BTのみに同梱

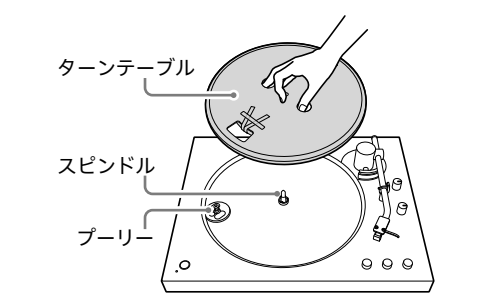


- 印刷物(一式)
- ご注意
修理の際などの再輸送のために、梱包用クッションは保管しておいてください。

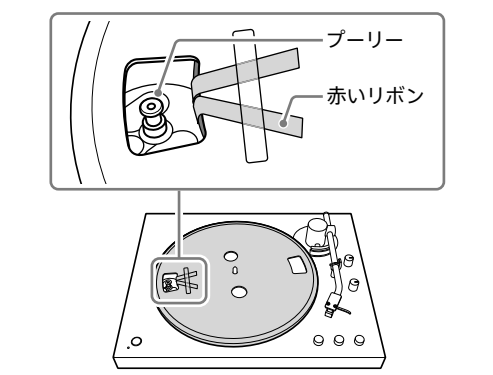
レコードプレーヤーを組み立てる

ご注意
安定した水平場所に設置してください。

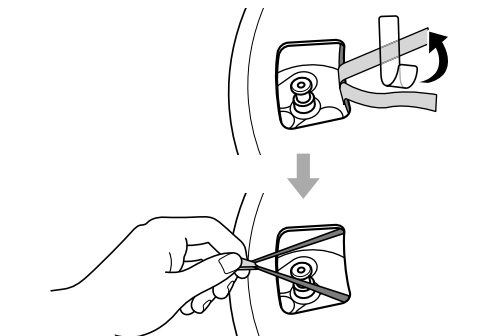
1 ターンテーブルをスピンドルに差し込む。



2 ターンテーブルを回して、赤いリボンが留められている穴からプリーが見える位置に合わせる。

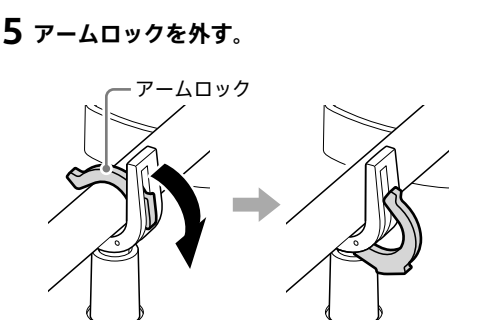


3 テープをはがして赤いリボンを引っ張りながら、ドライブベルトをプリーに引っ掛ける。



ご注意
• ドライブベルトをねじらないようにご注意ください。
• ドライブベルトの取り付け時に、ドライブベルトがターンテーブルの内円部から外れてしまった場合は、ターンテーブルをいったん取り外して裏返し、ドライブベルトを内円部の外周に巻き直して最初の手順からやり直してください。
• ドライブベルトをプリーに掛けただ後は、必ず赤いリボンを外してください。

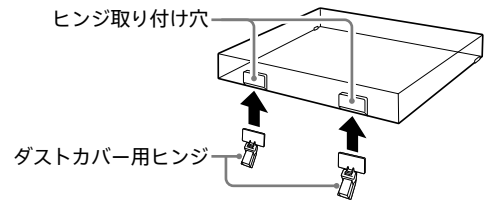
4 ターンテーブル用マットをターンテーブルの上に敷く。
ターンテーブル用マットの中央に凹みがある場合、その面を表にして敷きます。



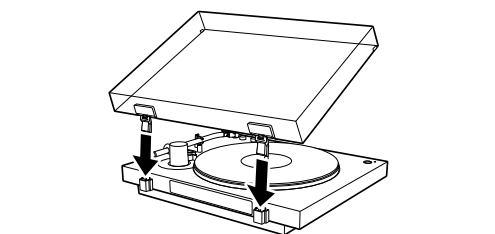
6 動作機構を初期化するため、UP/DOWNボタンを押してトーンアームを上げ、ターンテーブルを10回転させる。

ご注意
トーンアームに手がぶつからないようご注意ください。
回転させた後は、UP/DOWNボタンを押してトーンアームを降ろしてください。

7 ダストカバー用ヒンジをダストカバーに差し込む。



8 ダストカバーを本機に取り付ける。



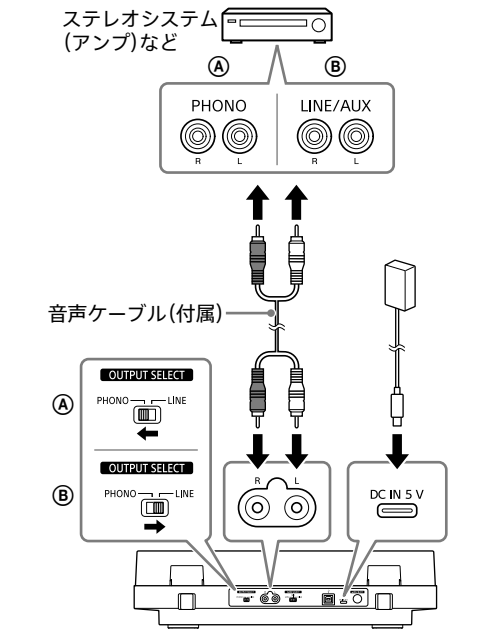
ご注意
組み立て後に本機を移動させるときは、本機を以下の状態にしてください。
• 針先カバーを取り付ける。
• ターンテーブルを取り外す。
• トーンアームをアームロックで固定する。

ステレオシステムを接続する

ご注意
必ず、ステレオシステム(アンプ)の電源を切ってから接続してください。

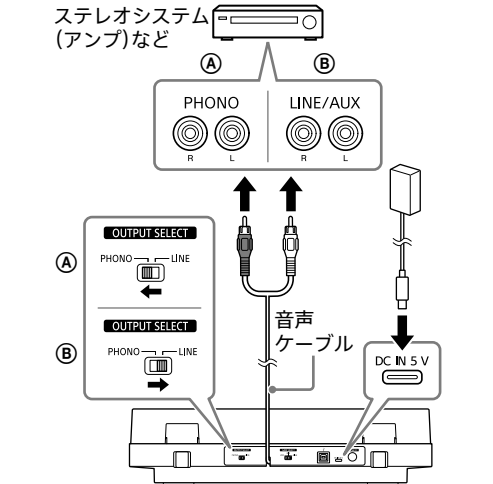
PS-LX5BT

- ④：PHONO入力端子に接続する場合
- ⑥：LINE/AUX入力端子などに接続する場合



PS-LX3BT

- ④：PHONO入力端子に接続する場合
- ⑥：LINE/AUX入力端子などに接続する場合



1 音声ケーブルを、本機とステレオシステム(アンプ)のPHONO入力端子またはLINE/AUX入力端子に接続する。

- PS-LX5BTの場合は、付属の音声ケーブルを本体背面の音声出力端子に接続してください。PS-LX3BTの場合は、音声ケーブルが本体背面から出ています。
- 白(L)端子には白プラグを、赤(R)端子には赤プラグを接続します。

2 ステレオシステム(アンプ)の端子に合わせて、本体背面のOUTPUT SELECTスイッチを切り替える。

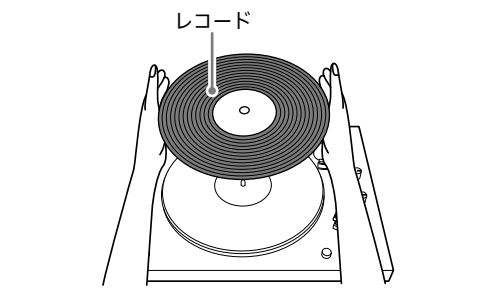
- ④：音声ケーブルをPHONO入力端子に接続した場合
PHONO側に切り替えます。本機内蔵のフォノイコライザーアンプを通すに、MMカートリッジからの音声信号が音声ケーブルから出力されます。ステレオシステム(アンプ)側のフォノイコライザーアンプが使用されます。
- ⑥：音声ケーブルをLINE/AUX入力端子などに接続した場合
LINE側に切り替えます。本機内蔵のフォノイコライザーアンプを通した音声信号が音声ケーブルから出力されます。

ご注意
• 本機をBLUETOOTH接続だけで使用する場合は、音声ケーブル先端の金属部同士が接触したり、ラックや他の機器の金属部に接触したりしないように設置し、OUTPUT SELECTスイッチをLINE側に切り替えてご使用ください。
• ステレオシステム(アンプ)のPHONO入力端子に接続する場合は、OUTPUT SELECTスイッチを必ずPHONO側に切り替えてください。LINE側に切り替えると、アンプやスピーカーを壊してしまう可能性があります。

レコードを再生する

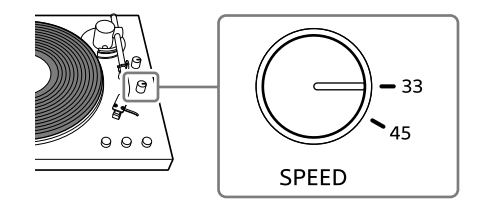
ご注意
ステレオシステム(アンプ)の音量は、レコードを再生する前に下げておいてください。トーンアームが降り、針先がレコードに触れたときに大きな音(ポプ音)がする場合があります。ステレオシステム(アンプ)やスピーカーを損傷する原因となります。針先が降りてから、音量を調節してください。

1 ターンテーブルにレコードをのせる。

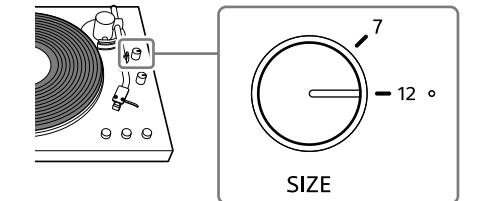


7インチ(17 cm)レコード(EP盤)を再生するには
7インチ(17 cm)レコード(EP盤)を再生する場合は、付属の45回転アダプターをスピンドルの上に置いてください。
アダプターを使い終わったら、45回転アダプター収納ホールに収納してください。

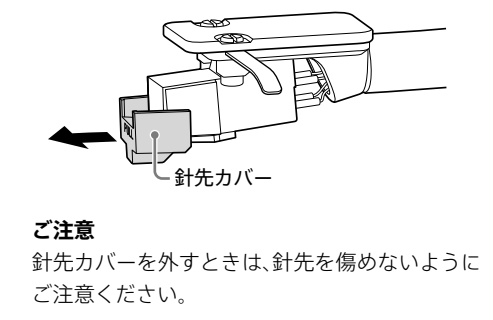
2 レコード盤に合わせてSPEEDノブの回転速度を選ぶ。



3 SIZEノブでレコードのサイズを選ぶ。
LP盤では「12」、EP盤では「7」に合わせます。



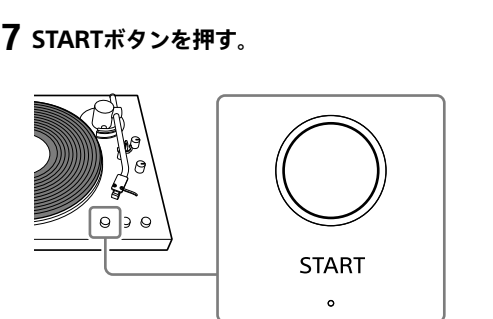
4 針先カバーを外す。



ご注意
針先カバーを外すときは、針先を傷めないようにご注意ください。

5 アームロックを外す。

6 ACアダプターを電源コンセントに接続し、本体背面の電源ON/LL OFFボタンを押して本機の電源を入れる。



- ご注意
• ダストカバーを開める場合は、振動で針飛びが起らないようにゆっくりと開めてください。
- 再生中は、トーンアームや回転しているレコードに触れないでください。
- 再生中は、本体背面のスイッチを操作しないでください。

8 ステレオシステム(アンプ)で音量を調整する。

再生を途中で停止するには
STOPボタンを押します。トーンアームはアームレストに戻り、ターンテーブルは止まります。

再生を一時停止するには
UP/DOWNボタンを押します。トーンアームはレコード盤より上がります。ターンテーブルは回転したままです。

再生が終了したら
トーンアームは自動的にアームレストに戻り、ターンテーブルは止まります。

途中から再生を開始するには

1 手順6の後、UP/DOWNボタンを押して、トーンアームを上げ、UP/DOWNボタンを押して、トーンアームを下げる。
演奏を始めた位置に、トーンアームを手で持っています。

2 UP/DOWNボタンを押して、トーンアームを降ろす。

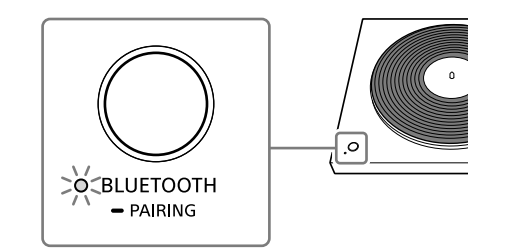
BLUETOOTH®機能を使う

BLUETOOTH対応機器とペアリング(機器登録)する

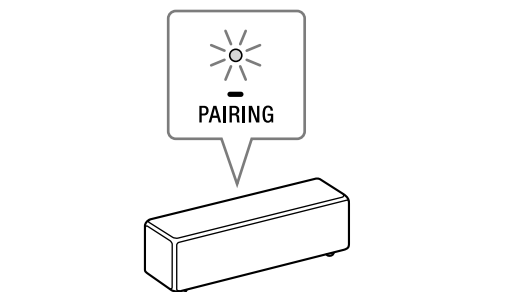
本機と初めてBLUETOOTH接続するBLUETOOTH対応機器の場合、事前にペアリングする必要があります。

1 接続したいBLUETOOTH対応機器を、できるだけ本機の近くに置く。

2 本機のBLUETOOTHボタン／⇨PAIRINGボタンを約2秒間押し続けてから離す。
BLUETOOTHランプが青色に速く点滅します。



3 接続するBLUETOOTH対応機器をペアリングモードにする。



ペアリングが完了すると、本機のBLUETOOTHランプが青色の点滅から点灯に変わります。

ご注意
BLUETOOTH接続だけで使用する場合は、本体背面のOUTPUT SELECTスイッチをLINE側に切り替えてご使用ください。

ちょっと一言

- BLUETOOTH接続を解除するには、BLUETOOTHボタン／⇨PAIRINGボタンを押してください。BLUETOOTHランプが消灯します。
- 本機には、最大で8台までのペアリングした機器の情報を登録することができます。登録した機器の情報は、BLUETOOTHボタン／⇨PAIRINGボタンを約10秒間押し続けてから離すとすべて消去することができます。

BLUETOOTH対応機器でレコードの音を聞く

1 BLUETOOTH対応機器の電源を入れて、BLUETOOTH接続でのデータ受信を可能な状態にしてから、本機のBLUETOOTHボタン／⇨PAIRINGボタンを押してBLUETOOTH機能を有効にする。
BLUETOOTH接続に成功すると、本機のBLUETOOTHランプが青色に点灯します。

2 「レコードを再生する」の手順1～7を行って、レコードを再生する。

保証書

品名ステレオレコードプレーヤー
型名PS-LX5BT/ PS-LX3BT

Sample

保証書は製品に同梱されている取扱説明書に印刷されたものをご使用ください。

お客様住所お名前電話様

無料修理規定

1. 正常な使用状態で保証期間内に製品（ハードウェア）が故障した場合に、本書に従い無料修理をさせていただきます。本書記載の修理対応の種別（出張修理、持込修理、引取修理）をご確認の上、以下の要領でご依頼および本書（再発行しませんので、大切に保管してください）の提示・提出をお願いします。なお、受付窓口の種別は、(1)お買い上げのお店、(2)お近くのソニー・サービスステーション、(3)本書に記載の修理相談窓口の3種別です。

2. お客様のご要望により、出張修理の種別について引取修理を、持込修理の種別について出張修理を行う場合は、別途所定の料金を申し受けます。

3. 保証期間内の故障でも次の場合には有料となります。

4. 修理に際して再生部品・代替部品を使用する場合があります。また、修理により交換した部品は弊社が任意に回収のうえ適切に処理・処分させていただきます。

5. 本書に基づく無料修理（製品交換を含む）後の製品については、最初のご購入時の保証期間が適用されます。

6. 故障によりお買い上げの製品を使用できなくなったことによる損害については補償いたしません。

7. 記録媒体を搭載または使用する製品の故障、故障の際または修理・交換により記録内容が消失等する場合がありますが、記録内容についての補償はいたしません。

8. 本書は日本国内でのみ有効です。(This warranty is valid only in Japan.)

修理メモ

※本書はお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

※保証期間後の修理については、取扱説明書等をご覧ください。

パソコンにレコードの曲を録音する

USBケーブル(別売)で本機とパソコンを接続して、パソコンにレコードの曲を録音することができます。

ご注意

- 録音するには録音用ソフトウェアをパソコンにインストールする必要があります。インストールしない、本機をパソコンに接続しても録音できません。別途、音楽録音用ソフトウェアをご準備ください。フリーソフト(Audacity®)を使用することでもできます。下記のアドレスからダウンロードしてください。https://www.audacityteam.org/このソフトウェアは、弊社サポート対象外です。
- 本機のUSB出力は、録音専用です。レコードを再生する目的には使用できません。

本機に接続できるパソコン

Windows®

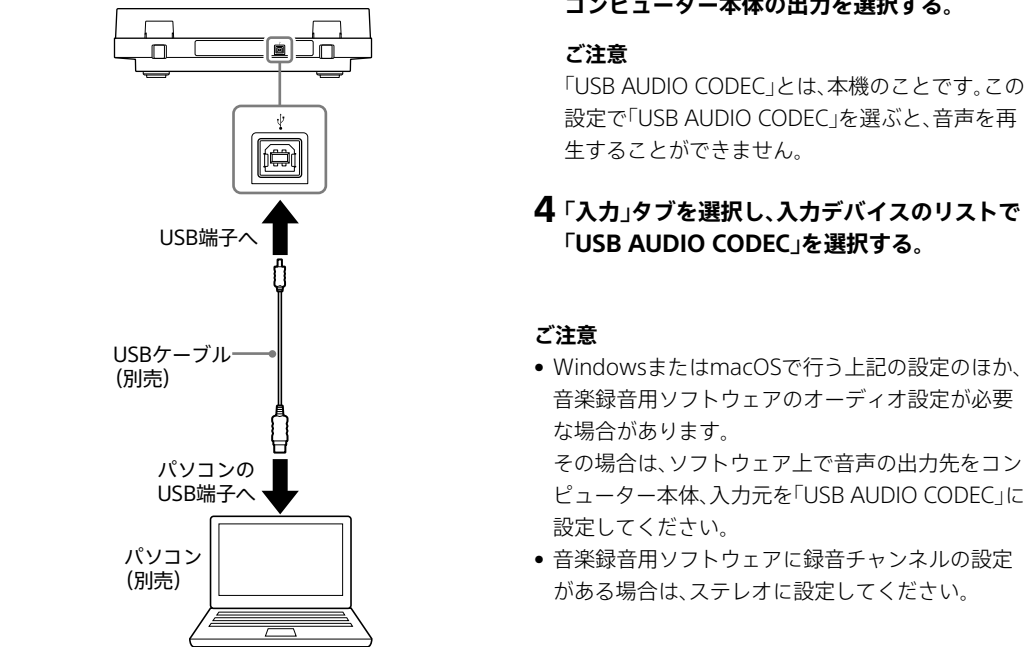
OS：Windows 11 (64 bit)

Mac

OS：macOS Ventura (13)
macOS Sonoma (14)
macOS Sequoia (15)

パソコンと接続する

- 本機とパソコンをつなぐ。**



- 本体背面の電源  ON /  OFFボタンを押して、本機の電源を入れる。**

ご注意

- USBハブ、またはUSB延長ケーブルを使わないでください。
- 本機とパソコンをUSBケーブル(別売)で接続して録音する場合は、本体背面のOUTPUT SELECTスイッチの位置に関わらず、本機内蔵のフォノイコライザーアンプによって調整された音声が入パソコンのUSBポートへ入力されます。

お手入れと部品の交換

針先のお手入れ

針先は、非常に精密な部品です。破損させないように丁寧に扱ってください。針先のお手入れには、市販のクリーナーなどをご利用ください。

針先を交換する

針先は、ご使用になる条件によって摩耗、破損したり、クリーナーで汚れが取りきれなくなる場合があります。その場合は、針先の交換を行ってください。下記の修理相談窓口に「PS-LX5BT/ PS-LX3BTの交換用針先」について、お問い合わせください。
・フリーダイヤル：0120-222-330
・携帯電話：一部のIP電話：050-3754-9599

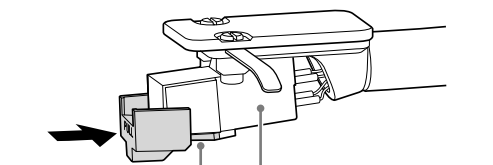
ご注意

- 他社製の交換用針先は使用できません。
- 針先を交換する際は、必ず針先カバーを取り付けてから行ってください。針先でけがをしたり、針先を損傷したりするおそれがあります。

針先の外しかた

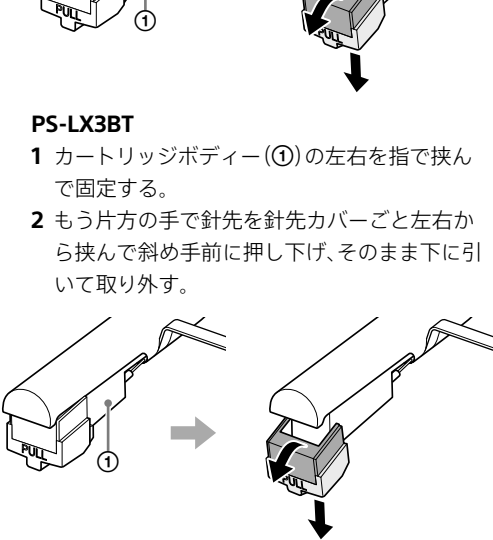
- 本機とステレオシステム(アンプ)の電源を切り、それぞれのACアダプターを電源コンセントから外す。**

- 針先カバーを針先下部の凸部 ①に合わせ、カートリッジポディー ②の奥に向かってスライドして取り付ける。**



- 「入力」タブを選択し、入力デバイスのリストで「USB AUDIO CODEC」を選択する。**

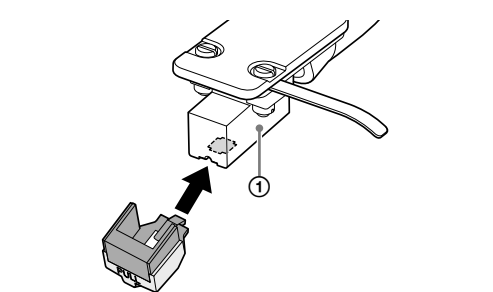
- ご注意**
- WindowsまたはmacOSで行う上記の設定のほか、音楽録音用ソフトウェアのオーディオ設定が必要な場合があります。その場合は、ソフトウェア上で音声の出力先をコンピューター本体、入力元を「USB AUDIO CODEC」に設定してください。
 - 音楽録音用ソフトウェアに録音チャンネルの設定がある場合は、ステレオに設定してください。



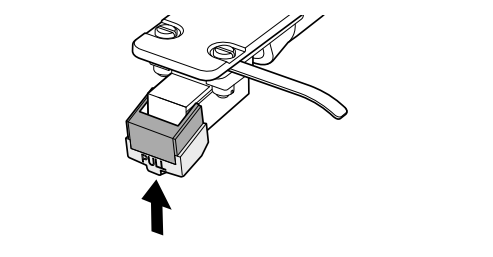
針先の取り付けかた

- 針先に針先カバーを取り付ける。**

- カートリッジポディー部分 ①の左右を指で挟んで固定しながら、交換用の針先のツメをカートリッジポディーの穴に斜め下から差し込む。**



3 針先を真上にカチッというまで押し上げる。



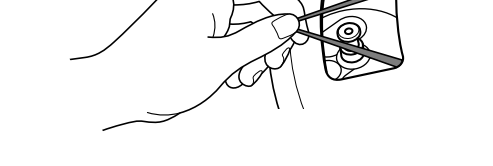
ドライブベルトを交換する

ドライブベルトは、ご使用になる条件によって劣化したり、切れたりする場合があります。その場合はドライブベルトの交換を行ってください。交換用のドライブベルトについては、下記の修理相談窓口にお問い合わせください。
・フリーダイヤル：0120-222-330
・携帯電話：一部のIP電話：050-3754-9599

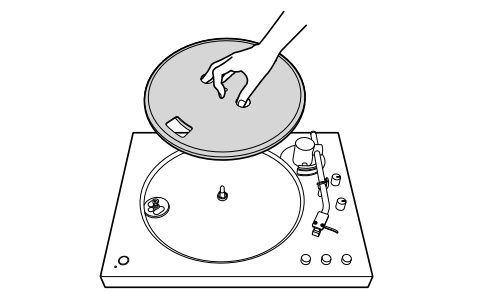
- 本機とステレオシステム(アンプ)の電源を切り、それぞれのACアダプターを電源コンセントから外す。**

- ターンテーブル用マットを取る。**

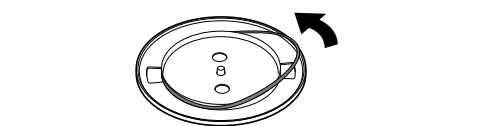
- プーリーからドライブベルトを外す。**



- ターンテーブルの穴に指を差し込み、ターンテーブルを取り外す。**



- ターンテーブルを裏返して、ドライブベルトを取り外す。**



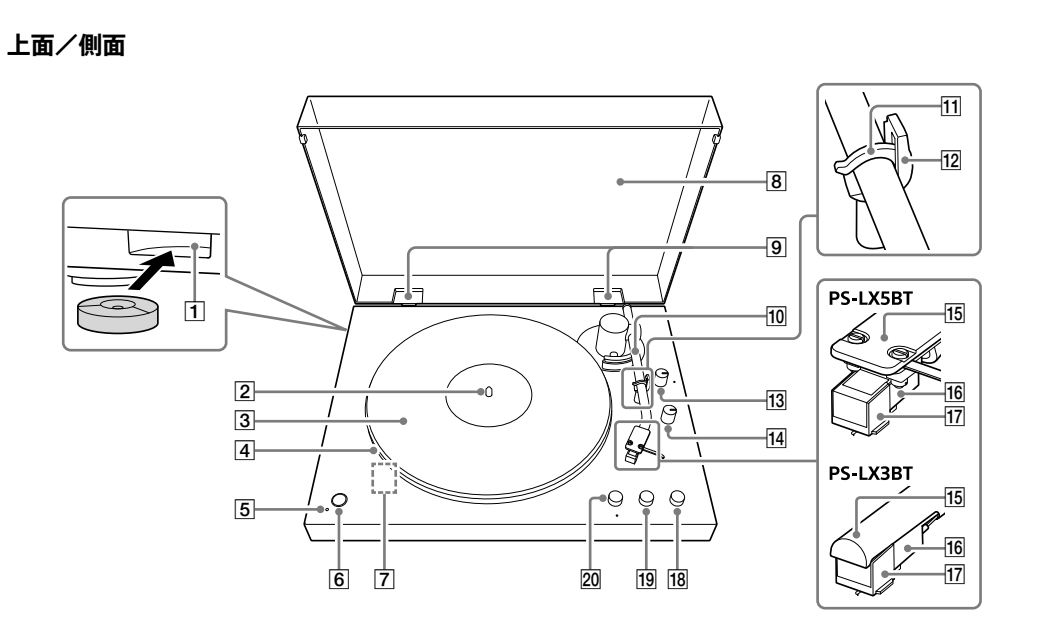
- 新しいドライブベルトをねじれないようにターンテーブルに取り付ける。**

以降、本機の組み立て方法について詳しくは、「レコードプレーヤーを組み立てる」をご覧ください。

カバーと本体のお手入れ


ダストカバーと本体の汚れは、柔らかい乾いた布でふいてください。汚れが落ちにくい場合は、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

各部の名前



- 45回転アダプター収納ホール
- スピンドル
- ターンテーブル用マット
- ターンテーブル

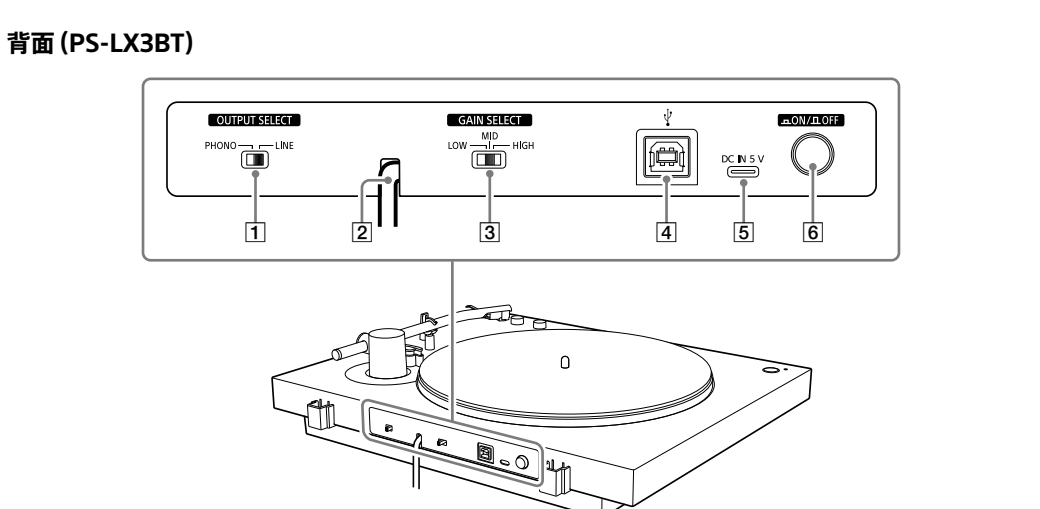
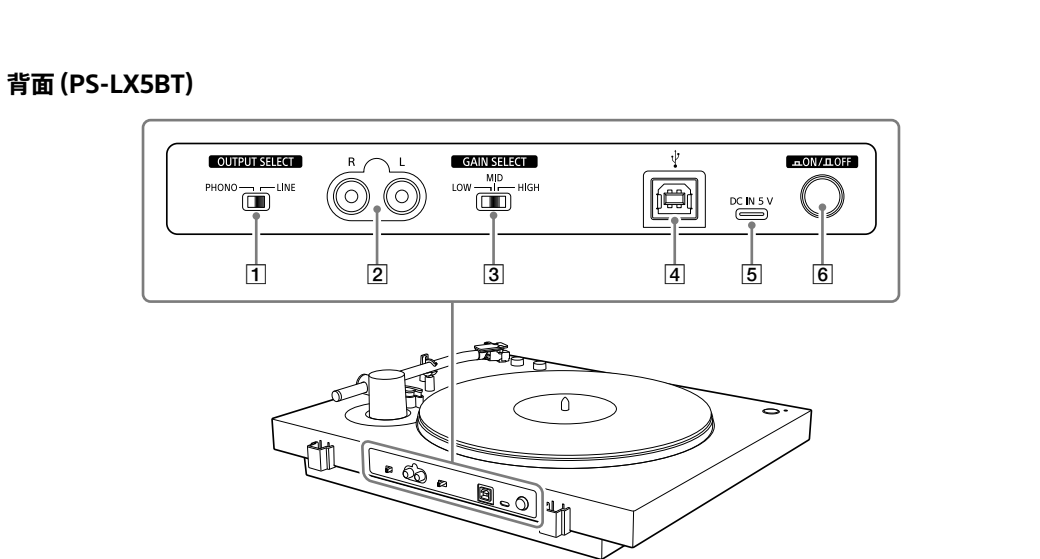
本機を組み立てるときに、スピンドルに差し込んで取り付けます。裏側にはドライブベルトが巻きつけてあります。
- BLUETOOTHランプ

青色で速く点滅：BLUETOOTHとのペアリング(機器登録)待ち状態です。
 青色で点灯：BLUETOOTH対応機器とBLUETOOTH接続されています。
 オレンジ色で点灯：ペアリング済みの機器との接続待ち状態です。
- BLUETOOTHボタン /  PAIRINGボタン
- マイクUSB端子

ターンテーブルを取り外した内側にあります。本機のファームウェアの更新があった場合に、マイクUSBケーブル(別売)を使ってパソコンと接続して、更新します。
- ファームウェアの更新については、「ソフトウェアのバージョンの確認方法」もあわせてご覧ください。
- ダストカバー
- ダストカバー用ヒンジ
- トーンアーム
- アームロック



レコードを再生しないときに、トーンアームを固定して衝撃から守ります。
- アームレスト
- SIZEノブ
- SPEEDノブ
- ヘッドシェル
- カートリッジポディー
- 針先
- UP/DOWNボタン
- STOPボタン
- STARTボタン*

* SIZEノブの「12」とSTARTボタンには、凸点(突起)があります。操作の目印としてお使いください。



- OUTPUT SELECTスイッチ
- 音声出力端子 (PS-LX5BT)

音声ケーブル (PS-LX3BT)
- GAIN SELECTスイッチ

レコードに記録された音量の差を再生時に調整します。小さい音量で記録されたレコードの場合、HIGH側に切り替えると適度な音量で再生されます。大きな音量で記録されたレコードの場合、HIGH側に切り替えた状態で再生すると音がひずむことがあります。レコードに合わせて設定を変更してください。
- 音量調整はOUTPUT SELECTスイッチをLINE側に切り替えているときのオーディオ出力や、BLUETOOTH接続での再生音量、パソコンでの録音音量に有効です。OUTPUT SELECTスイッチをPHONO側に切り替えているときのオーディオ出力には無効です。
- ψ USB端子 (Type B)
- DC IN 5 V端子
- 電源  ON /  OFFボタン

仕様

ステレオレコードプレーヤー (PS-LX5BT/ PS-LX3BT)

モーター／ターンテーブル
駆動系
モーター
DCモーター
ターンテーブル
直径296 mm (ダイキャストアルミ合金)
回転速度
2速 (33-1/3 r/min、45 r/min)
ワウ&フラッター
0.1% (WRMS)
S/N比
付属のカートリッジ使用時
50 dB以上 (DIN-B)

トーンアーム
型式
ダイナミックバランスタイプアーム
実用アーム長
197 mm

カートリッジ
タイプ
PS-LX5BT：MM
PS-LX3BT：MM
針圧
PS-LX5BT：2.0±0.5 g
PS-LX3BT：3.5±0.5 g
出力レベル
PS-LX5BT：2.5 mV
PS-LX3BT：2.5 mV

BLUETOOTH部
出力
BLUETOOTH標準規格 Power Class 2
最大通信距離
見通し距離約10 m
通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。
使用周波数帯域
2.4 GHz 帯 (2.400 0 GHz ～ 2.483 5 GHz)
変調方式
FHSS
対応BLUETOOTHプロファイル
BLUETOOTHプロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。
A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)
対応コーデック
コーデックとは、音声圧縮変換方式のことです。SBC (Subband Codec)
Qualcomm® aptX™ audio
Qualcomm® aptX™ Adaptive audio
伝送帯域 (A2DP)
20 Hz ～ 20 000 Hz (44.1 kHzサンプリング時)
20 Hz ～ 40 000 Hz (aptX Adaptive 96 kHzサンプリング時)

USB部
出力端子
Bタイプ (USB 2.0 プラグインパワー)
電源
パソコンから供給 (DC 5 V 100 mA)

一般
出力
音声出力
電源
DC 5.0 V 2.0 A (付属のACアダプターを接続してAC 100 V ～ 240 V、50 Hz/60 Hz電源を使用)
この製品には付属のACアダプターをご使用ください。付属以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。
消費電力
付属のACアダプター使用時
On状態のとき (電源ボタンがONでターンテーブルが回転しているとき)：1.8 W
低消費電力状態のとき (電源ボタンがONでターンテーブルが回転していないとき)：0.5 W以下
本機はターンテーブルの回転が止まると低消費電力状態になります。
電源オフ状態のとき (電源ボタンがOFFのとき)：0.3 W以下
最大外形寸法 (幅×高さ×奥行)
約430 mm × 117 mm × 366 mm
質量
ダストカバーを装着した場合。
PS-LX5BT：約3.6 kg
PS-LX3BT：約3.5 kg

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

商標について

- MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- Apple、MacおよびmacOSは、米国および他の国や地域で登録されたApple Inc.の商標です。
- Qualcomm aptXはQualcomm Technologies, Inc. および/またはその子会社の製品です。
- Qualcommは米国および他の国や地域で登録されたQualcomm Incorporatedの商標です。aptXは米国および他の国や地域で登録されたQualcomm Technologies International, Ltd.の商標です。
- BLUETOOTH®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニーグループ株式会社及びその子会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- USB Type-C™およびUSB-C™は、USB Implementers Forumの商標です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

使用上のご注意

- 録音についてのご注意**
- あなたが録音したものは、個人として楽しむものではなくは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
 - ドライブベルトがモーターのプーリーに完全に掛かっているか確認してください。
 - ACアダプターについて**
 - この製品には付属のACアダプターをご使用ください。付属以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。
 - 付属のACアダプターは本機専用です。他の機器ではご使用になれません。

機器認定について
本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。
・本機を分解／改造すること

困ったときは

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。

レコード再生

USB端子につないだパソコンやステレオシステム(アンプ)で再生できない

- 本機で再生するには、ステレオシステム(アンプ)と本機を音声ケーブルで接続してください。
- USB端子は、録音用ソフトウェアでパソコンに録音するときに使用します。ステレオシステム(アンプ)の接続にはご使用になれません。

トーンアームが飛んだり、滑ったりする
・本機が水平になっていない場合は、本機を水平な場所の上に置いてください。
・レコードが汚れているか傷ついている場合は、市販のレコード専用クリーニングキットでレコードをふくか、または他のレコードと交換してください。

正常な音質が得られない
・針先が汚れていてノイズが多い場合は、市販のレコード針専用のクリーナーなどでお手入れしてください。針先が消耗している場合は、消耗した針先を交換してください。
・音が不安定にゆれる場合は、ドライブベルトが劣化している可能性があります。ドライブベルトを交換してください。

- 音が不安定にゆれる場合は、ドライブベルトが劣化している可能性があります。ドライブベルトを交換してください。
- レコードにホコリや塵が付いていてノイズが多い場合は、レコード専用クリーナーでレコードをふいてください。

- 針先が摩耗している場合は、針を交換してください。
- 低いうなり音や低周波ハウリング*が起る**
本機の設置場所がスピーカーに近すぎるので、本機をスピーカーから離してください。
* この現象は「音響フィードバック」と呼ばれています。スピーカーの振動が空気や固体(棚、キャビネット、床など)を通過してプーリーに伝わり、針先に拾われ、増幅されスピーカーから再生された場合が生じます。

雑音が入る

- 本体背面のOUTPUT SELECTスイッチの設定を確認してください。PHONO側に切り替えた状態で、本機をステレオシステム(アンプ)のPHONO入力端子以外の入力端子を使って接続していると雑音が入ることがあります。背面のOUTPUT SELECTスイッチをLINE側に切り替えてください。また、LINE側に切り替えているときは、本機をステレオシステム(アンプ)のPHONO入力端子を使って接続しないでください。
- 本機がパソコンとUSBケーブル(別売)で接続されていないか確認してください。USBケーブル(別売)をつないだまま、ステレオシステム(アンプ)などと接続すると、雑音が発生することがあります。
- ステレオシステム(アンプ)とパソコンがUSBケーブル(別売)や音声ケーブル(別売)で接続されていると、レコード再生時に雑音が発生することがあります。その場合はパソコンとステレオシステム(アンプ)の接続を外してください。

- 音程が高すぎる／低すぎる**
回転速度が誤っている可能性があります。レコードに記載されている回転速度に合わせてください。33-1/3 r/minのレコードではSPEEDノブを「33」に、45 r/minのレコードではSPEEDノブを「45」に設定してください。
- ドライブベルトがねじれている可能性があります。ねじれを取り除いてください。
- ドライブベルトが劣化している可能性があります。ドライブベルトを交換してください。

- 音程が不安定になっている**
針先が摩耗しています。針を交換してください。

- ドライブベルトが劣化している／切れている**
ドライブベルトを交換してください。ドライブベルトについては、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。

- ターンテーブルが回転しない**
 - ACアダプターが壁のコンセントと本機のDC IN 5 V端子にしっかり接続されているか確認してください。
 - ドライブベルトがモーターのプーリーに完全に掛かっているか確認してください。
- 再生音が小さすぎる、またはひずんでいる**
本機を接続したステレオシステム(アンプ)の入力端子と本機のOUTPUT SELECTスイッチが、お使いのステレオシステム(アンプ)に合わせた設定になっているか確認してください。

BLUETOOTH接続	
<p>ペアリング(機器登録)できない</p> <ul style="list-style-type: none">ペアリングしたいBLUETOOTH対応機器以外でBLUETOOTH機能が有効になっている機器が周囲にある場合は、それらの機器のBLUETOOTH機能を無効にしてから、再度ペアリングを行ってください。 本機のペアリング操作により、ペアリングしたくない機器の電源がオンになり、自動的にペアリングしてしまう場合があります。その場合は、BLUETOOTH接続により電源がオンにならないように機器の設定を変更し、機器の電源をオフにしてから、再度目的の機器とペアリングしてください。 BLUETOOTH対応機器をペアリングモードにする方法は機器によって異なります。詳しくは、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。	

USB端子につないだパソコンやステレオシステム(アンプ)で再生できない

接続したいBLUETOOTH対応機器以外でBLUETOOTH機能が有効になっている機器が周囲にある場合は、それらの機器のBLUETOOTH機能を無効にしてください。

スマートフォンやテレビ、パソコンと接続できない
本機はBLUETOOTH機能を使って、BLUETOOTH対応機器にデータを送ることはできますが、スマートフォンやテレビ、パソコンからのデータを受信することができないため、接続することはできません。

BLUETOOTH接続できる距離が短い
以下の方法により、接続距離が延びる場合があります。
・本機とBLUETOOTH対応機器に他の電子機器が接続されている場合は、電子機器を外す。
・電子レンジが接続されている電源コンセントとは別のコンセントに、本機を接続する。
・本機を金属製ではない台の上に設置する。

保証書とアフターサービス

保証書
<ul style="list-style-type: none">この製品には保証書が添付されています。 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。 保証期間中、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス
<p>調子が悪いときはまずチェックを</p> <ul style="list-style-type: none">この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。 <p>それでも具合が悪いときは</p> <ul style="list-style-type: none">製品内部を開けずに、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。修理をご依頼の際は原因特定のため、ご使用中のケーブル類などもすべて合わせてお持ちください。

保証期間中の修理は
・保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
・修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
・当社では、本製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について


- この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

使用上の誤りにより、針先とドライブベルトを損傷、消耗、摩耗した場合、交換は有償になります。

ソニーの相談窓口のご案内

本製品についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、ホームページまたはソニーの相談窓口へ。ご質問の内容によっては、本機に接続される機器についてお問い合わせさせていただく場合があります。事前にわかる範囲でご確認いただき、お知らせください。

モデル名、シリアルナンバー(製造番号)は、本体の底面に記載されています。

お問い合わせ窓口	
<p>●各種お問い合わせ(LINEやメールなど) 詳しくは以下のホームページをご覧ください。 https://www.sony.jp/support/inquiry.html</p>	
	
<p>●電話でのお問い合わせ</p>	
<p>【お問い合わせ窓口】 フリーダイヤル: 0120-333-020 携帯電話・一部のIP電話: 050-3754-9597</p>	<p>【修理相談窓口】 フリーダイヤル: 0120-222-330 携帯電話・一部のIP電話: 050-3754-9599</p>
<p>ガイドラインに沿って短縮番号「3 0 6」＋「#」を押すと、担当窓口へおつぎします。</p>	
FAX: (共通)0120-333-389	ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1